

## 平成 29 年度第 4 回当別町地域公共交通活性化協議会議事概要

### 1 開催日時及び開催場所

日時：平成 30 年 2 月 22 日（木） 10：00～11：25

場所：当別町役場 第二庁舎 2 階 会議室

### 2 出席委員

別紙委員名簿のとおり

### 3 協議会の概要

平成 30 年 1 月 31 日をもって委員の任期満了に伴い、平成 30 年 2 月 1 日付けで委員を委嘱した。新たな委員として当別町 PTA 連合会の泉亭英徳氏が委嘱された。

#### (1) 次第 2 「会長及び副会長の指名について」

当協議会設置要綱第 4 条の規定により当別町長の指名を受け当別町の増輪副町長が会長に就任した。副会長については、当協議会設置要綱第 4 条の規定により会長が指名し、北海道運輸局札幌運輸支局の中山首席運輸企画専門官が就任した。

#### (2) 次第 3 「監査委員の選任について」

当協議会設置要綱第 10 条の規定により委員の互選により監査委員 2 名を決定する旨、事務局より説明した。委員から事務局腹案の提示を求められたため、前任の吉成委員と竹原委員を推薦し、委員の承認をもって選任した。

#### (3) 次第 4 「報告(1)当別町コミュニティバスの利用実績について」

資料 1 に基づき当別町コミュニティバスの利用実績について、事務局より説明し、次のとおり質疑応答があった。

委員：市街地予約型線の導入後、地域説明を重ねた実績が利用者増加に繋がっていると思う。しかし、町内には交通空白地域が存在している。特に高齢者の足の確保は、重要な課題である。高齢者クラブも市街地のイベント等にも移動の際の足がなく参加できないため、解散するクラブも出てきてしまう。現在は、社会福祉協議会で車両送迎も実施している。一方で、利用が低迷している青山線を利用している高齢者で減便や廃線に危機感を抱いている人もいる。輸送サービスを受けられない高齢者の移動手段を検討するため、地域ケア会議が設立され、議論がなされている。例えば有償ボランティアの方が付き添う場合、利用を減免してもらえそうな仕組みを協議できないか。コミュニティバスは、高齢者の足の確保を目的だったことからサービスの枠を広げていけば利用者増加に繋がる。

事務局：コミュニティバスの制度の在り方を見直す意見だと認識する。運輸局をはじめ、関係機関の方との調整し、どのような仕組みなら運用できるかを考えさせていただく。現状把握も含めて、社会福祉協議会と個別協議もさせてもらい前向きに進めたい。

(4) 次第4「報告(2)平成29年度当別町地域公共交通活性化協議会予算執行状況について」

資料2に基づき平成29年度当別町地域公共交通活性化協議会予算執行状況について、事務局より説明し、質疑応答の後、承認された。

委員：収入繰入金と特別会計の繰出金の予算額が合っていない。どちらが正しいのか。

事務局：特別会計の繰出金の予算額に誤りがありました。正しくは、5,607,000円の差額が△2,077,000円です。

(3) 次第5「議題(1)当別町地域公共交通網形成計画（案）について」

資料3に基づき地域公共交通網形成計画（案）について、事務局より説明し、質疑応答の後、承認された。

委員：JR札沼線の進捗状況を教えて欲しい。

事務局：報道等でご承知のことと思いますが、JR北海道が札沼線の医療大以北から新十津川駅までの区間を維持困難線区に指定し、代替案が提示されました。沿線4町で昨年の4月から延べ10回以上の町長による会議を北海道をオブザーバーに迎えながら開催してきました。最近、JR北海道もその会議の中に入り、具体的な廃止後をイメージした提案をいただいた。当別町内の金沢・中小屋地区については、町として月形町の意向を十分くみ取らなければならない状況です。月形町は、従来から月形町までの線区について残す意向をJR北海道に申し入れている。その意向を尊重しつつもJR北海道からは、現在石狩月形駅までの区間であれば8往復運行しており、現状よりも若干便数を多くした形でのバス路線を構築し、石狩当別駅から石狩月形駅までのバス路線を新設することに最大限JRとして支援させていただきたいと提案を受けている。提案にあたり北海道医療大学駅がJRとバスの結節点になることから駅のバスターミナル化整備等を含め、金沢・中小屋地区をどのようなバス路線にしていけばかを十分相談させていただきたいとの提案でした。過去の経過を申し上げますと中小屋地区からは、コミュニティバス運行の要望があり、議会等でも受けたことがありました。しかし、コミュニティバスを運行させる最優先は、交通空白地区の優先度を高くと考えており、JRが運行している地区は、他の地区と比較すると優先度は低くなると答弁をした経緯もあります。この度、JRが廃止となる話が現実化すると仮定した場合、月形町と協議した上でのバス路線は、考える必要があると思っている。

(4) 次第5「議題(2)平成30年度当別町地域公共交通活性化協議会運行事業計画（案）について」

資料4-1～4-3に基づき平成30年度当別町地域公共交通活性化協議会運行事業計画（案）について、事務局より説明し、質疑なく承認された。

(5) 次第5「議題(3)平成30年度当別町地域公共交通活性化協議会予算（案）について」

資料5に基づき平成30年度当別町地域公共交通活性化協議会予算（案）について、事務局より

説明し、質疑なく承認された。

(6) 次第6「その他(1)今後のスケジュールについて」

資料6に基づき平成29年度のスケジュールを事務局より説明し、次回開催を6月に予定していることを報告した。

以 上